

相模原商工会議所 景気観測調査結果

平成30年度 第2四半期 (平成30年7月～9月)

業況DIは前期に比べ悪化。時期見通しも改善は見込めず

ポイント

▶ 平成30年7月～9月期の総合業況DIは▲19と、前期▲1から▲18ポイントの悪化。建設業（前期8・今期▲33）、小売業・卸売業（前期10・今期▲32）の変化が特に大きい。製造業（前期3・今期▲3）、飲食業・サービス業（前期▲13・今期▲12）は小幅に推移した。

いくつかの事業者が好景気で人手不足を訴える一方、景気の不透明感を感じると言った声や、実際景気が低迷していると感じるとの声があった。また、小売業やサービス業では大型台風や異常気象により客足が減少しているとの声があった。

また、依然として材料原価の上昇による利益の圧迫や人材獲得の困難さを課題と感じている事業者は多い。

▶ 次期見通しについては、総合業況DIは▲16と、今期▲19から+3ポイントの改善。建設業（今期▲33・次期▲7）、飲食業・サービス業（今期▲12・来期▲10）が改善見通しを立てているが、製造業（今期▲3・次期▲9）、小売業・卸売業（今期▲32・次期▲38）が悪化を予測しており、全体の数値は微増にとどまっている。

各業界から寄せられたコメント

【ゴムパッキン加工】
材料入荷がよくない。欠品のものが多い。人件費が増加している。

【公共建設工事】
発注先の見通しおよび予算減少が確実なため、業界全体が不況気味。

【防水工事】
大規模工事の依頼が少ない。

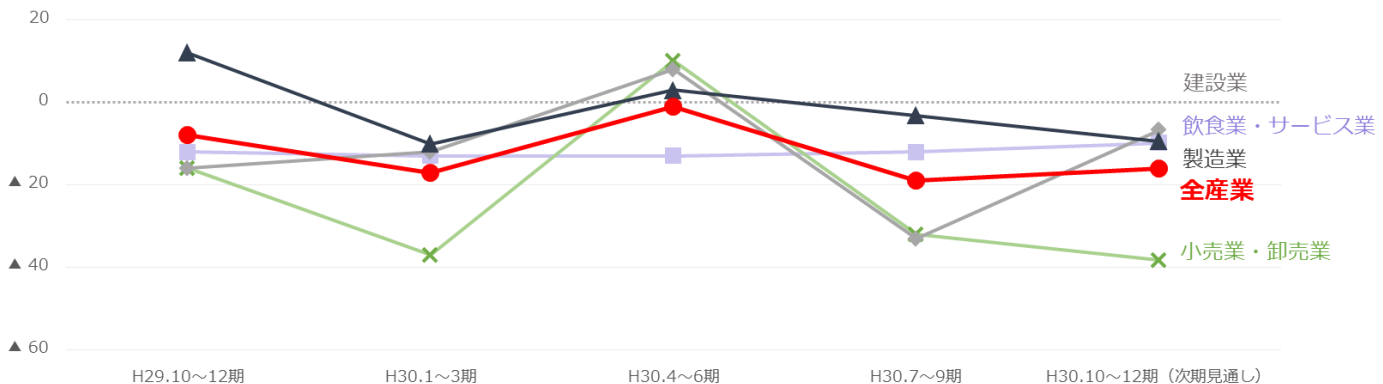
【建築、建設外構材料販売】
業者の元請からの材料支給が多くなり、かなり販売が低下している。

【青果卸売業】
野菜・果物を扱っているので、天候の影響を受けやすい。

【LPGおよびガス関連器具販売】
石油価格上昇に伴い仕入価格高騰。

【測量設計】
公共工事が減少している。

業種別業況（総合判断）DI値の推移



	前々期業況 (H30.1-3)	前期業況 (H30.4-6)	今期業況 (H30.7-9)	次期見通し (H30.10-12)
製造業	▲10	3	▲3	▲9
建設業	▲12	8	▲33	▲7
小売業・卸売業	▲37	10	▲32	▲38
飲食業・サービス業	▲13	▲13	▲12	▲10
全産業 (総合)	▲17	▲1	▲19	▲16

業況天気図凡例

快晴 DI値:31以上	晴れ DI値:30~11	薄曇り DI値:10~▲10	小雨 DI値:▲11~▲30	雨 DI値:▲31以下
----------------	-----------------	-------------------	-------------------	----------------

調査期間：平成30年9月1日～平成30年9月28日
 回答率：29.4% 回答社数：147社
 調査対象：当所会員中小企業500社(業種別に無作為抽出)

◀景気観測調査▶

前年度同時期の業況を比較し、「良い/悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

【担当】共済検定課 渡貫(晴)
 電話 042-753-8134